

貧困研究会 ニュースレター

2024年9月14日発行

No. 2

学会ニュースレター第2号をお届けします。どうぞ、ご活用ください。

【1. 貧困研究会第17回研究大会】

2024年度の研究大会は、初めて沖縄県で行います。那覇市の沖縄大学を会場として、2025年1月11日(土)・12日(日)の両日に開催します。

沖縄の貧困が、社会的に初めて取り上げられたのは、2015年に沖縄県が実施した子どもの貧困調査でした。貧困な世帯の割合が、当時30%に及んだことがきっかけになったのだと思います。それ以降、沖縄では米軍基地の存在などを中心とした平和の問題に加え、「貧困」という視点が注目されるようになっていきます。

ただ、沖縄では、単に所得の低さだけでなく、ジェンダーの問題や内地との権力の格差の課題も貧困問題と関連していると考えられます。共通論題のテーマとした「沖縄の貧困から考える」には、そうした視点も含んでいます。

1月の沖縄は、寒い日もありながら平均気温は17度程度で、議論や観光するには最適な季節です。みなさんの来沖をお待ちしております。

山野良一(沖縄大学)

<1月11日(土)>

13時頃～: 共通論題「沖縄の貧困から考える」

17時頃～: 総会、懇親会(20時頃終了予定)

<1月12日(日)>

9時頃～: 自由論題 ※終了時間は発表件数によって変動します。

〇問い合わせ先: 貧困研究会事務局(第17回大会関係)

Email: taikai-entry@hinkonken.org

◆今号の目次◆

1. 貧困研究会
第17回研究大会

2. 2023年度
総会報告

3. 第16回
研究大会報告

4. 出版部会より

5. 2023・2024年度
貧困研究奨励基金
による研究助成

6. 広報委員会より

7. 事務局より

◆貧困研究会事務局: 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学産業社会学部 桜井啓太研究室気付

◆編集・発行: 貧困研究会広報委員会 湯澤直美・吉中季子

Email:
admin@hinkonken.org

【2. 年次総会報告】

2023年11月4日に年次総会が開催されましたので、ご報告します。

第1号議案 2023年度活動報告(案)

(1) 学術交流

① 研究大会

第15回研究大会(共通論題「貧困を可視化する保健・医療・福祉の実践」)を2022年10月29日(土)、10月30日(日)に佐久大学で開催。

・参加者:大会参加エントリー 184名(オンライン138名 対面46名)(重複申し込みを除く)

①共通論題 158名(オンライン112名 対面46名)、②自由論題1 54名(オンライン30名 対面24名)、③自由論題2 47名(オンライン32名 対面15名)※会員約54%、非会員約46%

また、第16回研究大会を札幌学院大学で開催するため、実行委員会を中心に準備を進めてきた。

② 定例研究会

前回の総会以降に開催された定例研究会の開催日、報告タイトル、報告者、討論者・コメンテーター、参加者数は次の通りである。

・第36回:2023年3月4日(土)

テーマ:貧困研究奨励基金による研究成果発表、報告者:三沢徳枝(川口短期大学)、大野慶(北海道大学大学院)、会場:オンライン、参加者23名

・第37回:2023年2月27日(月)

テーマ:アメリカの社会福祉における貧困削減モデルの動向、報告者:ジェームズ・マンディバーク(NY市立大学ハンターカレッジ)、会場:立教大学池袋キャンパス&オンライン、参加者16名

③ 貧困研究会 2023年度連続セミナー

計5回開催した。

(2) 2023年度「貧困研究奨励基金」の研究助成について

2023年度「貧困研究奨励基金」による研究助成制度の募集に対して2件の応募があった。選考委員会において、厳正に審査を行い、2名の方に助成を行うことを決定した。

・渡邊 陽太(東北大学大学院文学研究科)

研究テーマ:社会階層から再考する東アジアの家族-日英における子どもの貧困事例の比較から

・亀山 裕樹(北海道大学大学院教育学院)

研究テーマ:子育てをするケアラーの生活状況と資源の不足に関する検討

(3) 部会活動・研究活動

・出版部会

出版部会は、2023年度貧困研究会第1回運営委員会(2023年2月3日)にて立ち上げが承認された。(藤原千沙・岩永理恵・垣田裕介・丸山里美)

承認前の準備会合を含め、2023年10月までに12回の会合を重ね、『貧困研究ハンドブック——日本の貧困問題を考える』『貧困研究ブックガイド——日本の貧困問題を考える』(仮称)の書籍出版に向けて活動している。貧困研究会第16回大会(札幌学院大学)の昼休み企画として、活動状況を会員に報告する出版部会セッションを開催する。

(4) 『貧困研究』の発行

・Vol.30(2023年6月)

特集1 貧困を可視化する保健・医療・福祉の実践(貧困研究会第15回研究大会共通論題より)

特集2 ケースワークの外部委託問題を考える

・Vol.31(2023年12月予定)

特集1 コロナ特例貸付と生活困窮者自立支援

特集2 「こども大綱中間整理を受けて」

(5) 会員管理システムの導入

学会向け管理サービス:SMOOSY(株式会社アトラス)について2023年3月より運用開始。

(6) 広報委員会

・広報委員会を立ち上げ、ニュースレターの発行を行った。

・非会員向けに、貧困研究会の入会案内のチラシを製作した。

(7) その他事務報告

- ・会員数(2023年10月25日時点):236名(正会員178名、正会員B58名(院生会員含む))
- (2023年度会費納入191名(未納20名)、2022年度会費納入196名(未納17名))
- ・運営委員会開催状況:第1回(3月)、第2回(8月)、第3回(10月)
- ・社会政策関連学会協議会(7月22日に23年度第1回協議員会が開催(出席者:湯澤直美副代表))

※賛成多数により承認された。

第2号議案 2022年度決算報告、2022年度監査報告(案)

※賛成多数により承認された。

- ・なお、アルバイトの時給については、東京都の最低賃金額を下限としてそれ以上の額を設定するよう、大会の事務マニュアルに記載することが確認された。

第3号議案 規約改正、規程制定

(1) 部会(貧困研究会規約)

貧困研究会規約について、次のとおり変更する。

- ・現行:第25条 本会の会員は部会を設けることができる。
- 2 部会には会員以外の者を参加させることができる。
- 3 部会を設置した場合は、部会名、部会の目的、代表者氏名、連絡先を運営委員会に報告しなければならない。
- ・変更案:第25条 本会の会員は部会を設けることができる。
- 2 部会には会員以外の者を参加させることができる。
- 3 部会を設置した場合は、部会名、部会の目的、代表者氏名、連絡先を運営委員会に報告しなければならない。
- 4 部会は活動において必要な経費の一部を、運営委員会の承認の上、予算として請求することができる。

※賛成多数により承認された。

(2) 雑誌『貧困研究』編集規程の制定(新設)について

『雑誌貧困研究』編集規程を制定する。

※2023年11月4日から施行する案が賛成多数

により承認された。

第4号議案『貧困研究ハンドブック』『貧困研究ブックガイド』(仮称)の出版について

出版にあたっては、貧困研究会出版部会編ではなく、貧困研究会編として出版したい。ハンドブックで取り上げる項目案、ブックガイドで取り上げる書籍案は、貧困研究会の会員に案を示し、会員の意見や提案を踏まえたうえで作成する。執筆者は貧困研究会の会員に限定しないが、執筆に向けた内容の研究会は、貧困研究会の会員に公開して、会員が参加できる機会を開く。

※賛成多数により承認された。

第5号議案 2024年度活動計画(案)

活動計画案(学術交流・定例研究会、研究大会及び総会、部会活動・研究活動、『貧困研究』の発行、『貧困研究』のバックナンバーのオンライン化、貧困研究奨励基金、広報活動、その他)が、賛成多数により承認された。

第6号議案 2024年度当初予算(案)

※賛成多数により承認された。

【3. 第 15 回研究大会報告】

去る 2023 年 11 月 4 日(土)5 日(日)、札幌学院大学新札幌キャンパスにて貧困研究会第 16 回研究大会が開催されました。この数年、新型コロナウイルスによるオンライン開催が続いてきましたが、久しぶりに対面を基本とした大会となりました。参加人数は初日がおおよそ 130 名、二日目がおおよそ 150 名と多くの方にご来場いただきました。

初日は「貧困と家族・ジェンダーの視点」を共通論題としたシンポジウムを開催しました。これまでの研究大会で取り上げられてこなかったテーマということもあり、貧困研究会で発表することができるテーマの可能性が広がったという感想を、特に若手研究者や実践家のみなさまからいただきました。また、ケアについてこれだけの論点の広がりがあることが理解できたこと、研究しなければならないことの着眼点が得られたことなど、大会に参加して学びになったとの声をいただいております。

二日目はイギリスの貧困研究の第一人者であられるルース・リスター先生を招聘しての講演会を開催しました。リスター先生の『新版 貧困とは何か』(明石書店)の日本での出版に合わせたご講演となりました。講演後は、会場外の書籍販売ブースにて即席のサイン会も行われ、来場者のみなさまへ嬉しいサプライズとなったようです。「貧困の意味―批判的省察―」と題された講演では、資源の不足・欠如という貧困の核心を押さえたうえで、貧困のなかにある当事者の尊厳と人権の観点から貧困の問題をとらえ、その解決の道を探っていく政策の方向性についてお話がありました。来場者アンケートでも、貧困のなかにある当事者と共に、私たちすべての人が価値を認められる社会を創る視点や気づきを得られたとの声が多く寄せられました。

その他、『貧困研究ハンドブック』『貧困研究ブックガイド』(仮称)の出版部会セッションや 10 本の自由論題報告もなされ、会場では活発な意見のやり取りが行われました。初代『貧困研究』編集長である青木紀先生も参加くださった懇親会を含め、対面開催で実際に顔を合わせて議論をすることの意義があらためて参加者の皆様に実感された大会だったのではないのでしょうか。なお、シンポジウムと講演会は大会後に録画のオンデマンド配信を行いました。前者が 91 回、後者が 63 回の視聴記録となり、オンラインでも多くの方に参加いただきました。

大会の報告は 6 月発行予定の『貧困研究 vol.32』に掲載されます。詳細はそちらをご覧ください。最後になりましたが、ご来場いただいた参加者の皆さま、大会運営に関わった関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

第 16 回大会実行委員長 札幌学院大学 大澤真平



【4. 出版部会より】

<出版部会：ハンドブック・ブックガイド執筆内容検討会開催のお知らせ>

出版部会では、2025年の秋に明石書店より貧困研究会編『貧困研究ハンドブック』『貧困研究ブックガイド』（仮称）の2冊の出版をめざして、活動しています。2022年12月から検討を重ねて、ようやく2冊の書籍の構成内容が固まり、2024年夏に執筆依頼をさせていただきました。

現在、2025年春の原稿締切に向けてご執筆をいただいているところですが、有志の執筆者のご協力のもと、本ハンドブック・ブックガイドの各項目の執筆内容について議論し、執筆に活かす検討会を、貧困研究会の会員に開かれた形で開催します。

執筆者から執筆内容の構想をお話いただき、参加者同士で意見交換できたらと思います。会員MLでもご案内しますので、ご関心があり、日程のご都合が合いましたら、ぜひご参加ください。

【計3回、オンラインで開催、執筆者（一部）による報告と意見交換】

10月29日（火）19～21時（予定）

11月24日（日）10～12時（予定）

12月26日（木）10～12時（予定）

【5. 2023年度・2024年度

貧困研究奨励基金による研究助成】

◆2023年度：審査の結果、次の2件が採択されました。

1 渡邊陽太氏（東北大学大学院文学研究科）

研究テーマ：社会階層から再考する東アジアの家族-日英における子どもの貧困事例の比較から

2 亀山裕樹氏（北海道大学大学院教育学院）

研究テーマ：子育てをするケアラーの生活状況と資源の不足に関する検討

◆2024年度：審査の結果、次の2件が採択されました。

1 大里 祥（大阪公立大学大学院都市経営研究科博士後期課程）

研究テーマ：生活保護と生活困窮者支援との「連携」における促進・阻害要因の分析

2 杉田 菜花（大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程）

研究テーマ：大都市圏に流出せず地方圏に残る若者の生活課題と支援策—進路選択の要因に着目して

【6. 広報委員会より】

広報委員会では、会員のみなさんの新刊の書籍情報を共有する取り組みを始めました。

随時、情報は提供してまいりますので、みなさまも下記のグーグルフォームより、最近刊行したものや近刊など、お寄せください。お待ちしております。

<https://forms.gle/LZcJG3j5A3ApfLi19>



複数の紹介書籍がある場合には、1件ごとにご記入ください。

【7. 貧困研究会事務局より】

◆会員数について

2023年8月現在の会員は233名でしたが、246名に増えています。貧困研究会の更なる活性化のためにも、みなさまの身近な研究者のかたや大学院生にも、ぜひ入会のお声かけをいただけますと幸いです。

専任職のない方(大学院生を含む)は、「正会員B」となり、会費は5000円に減額されます。この対応は、会費規程第3条により、代表および副代表が協議のうえ決定しますので、入会申込時(または所属変更時)に事務局までご一報ください。

◆会費の納入について

2024年度会費を納入いただいた皆様、誠に有難うございました。まだの方は、納入につきどうぞよろしくお願い致します。

◆事務局体制について

事務局長は桜井啓太、事務局員は大山典宏・小澤薫・吉中季子が担っています。